

# 金融経済 ニュースの着眼点

株式会社大和総研  
金融調査部 主任研究員  
長内 智



## 第63回 日本の紙幣が20年ぶりに改刷

新しいデザインの紙幣の発行が約1カ月後に迫ってきました。新紙幣（一万円札、五千円札、千円札）に関しては、今後、表面に描かれる肖像画の人物像や偉業、最先端の偽造防止技術などの話題が一段と増えてくると思われます。そこで今回は、新紙幣の特徴やその発行理由などを整理します。さらに、新紙幣を手に入れた際にぜひ注目したい「記番号」についても取り上げます。

### ① 1万円札の顔は40年ぶりに変更 — ～世界初の偽造防止技術

現在、日本では、中央銀行である日本銀行が唯一の「発券銀行」として法定の紙幣である銀行券（日本銀行券）を4種類（一万円札、五千円札、二千円札、千円札）発行しています。紙幣は、独立行政法人国立印刷局によって製造され、日本銀行が製造費用を支払って引き取り、銀行など金融機関を通じて市中で流通します。

今から約1カ月後の2024年7月3日には、3種類の紙幣（一万円札、五千円札、千円札）が改刷され、新しい絵柄・デザインの紙幣の発行が開始されます。紙幣の改刷は2004年11月1日以来、約20年ぶりです。一万円札の肖像画は福沢諭吉から渋沢栄一、五千円札は樋口一葉から津田梅子、千円札は野口英世から北里柴三郎へと変更されます。一万円札の肖像画が変わるのは、1984年11月1日に聖徳太子から福沢諭吉に変更されて以来、約40年ぶりです。

今回の改刷では、偽造防止技術が一層強化され、誰もが使いやすい「ユニバーサルデザイン」という視点を取り入れて最終的なデザインが決定されました。

新しい偽造防止技術として、3Dホログラムと高精細すき入れ（すかし）が世界で初めて導入されました。後者は、肖像人物の背景に高精細なすき入れを加えたものです。他には、インキを高く盛り上げる印刷技術（深凹版印刷）や、

紫外線を当てると発光するインキ（特殊発光インキ）、傾けると真珠のような光沢のある半透明な模様が浮かび上がるパールインキ、ごく微小な文字を線部や図柄の一部などに入れ込むマイクロ文字など従来の技術も使われています。

「ユニバーサルデザイン」に関しては、視認しやすいように表裏の額面のアラビア数字が大きくなりました。また、券種を識別しやすくするために、指で触ることで紙幣の種類を判断できる「識別マーク」を券種ごとに異なる場所に配置したほか、ホログラム・すき入れについては形状および配置を券種ごとに変えました。

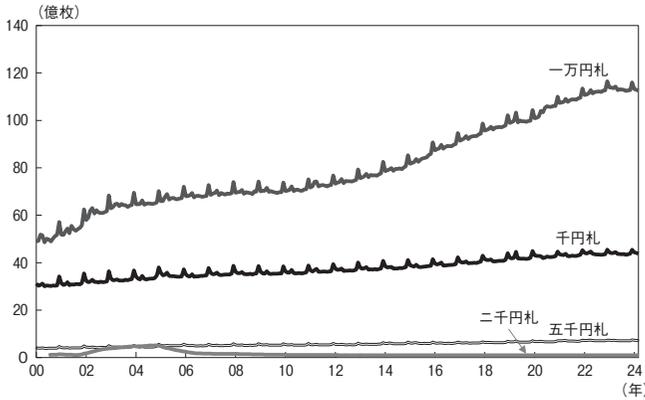
新紙幣が発行された後も、現在発行されている紙幣を引き続き利用することができます。近年、金融詐欺が世の中で大きな問題となっており、新紙幣に関しては、従来の紙幣が使えなくなると騙った詐欺事件が発生する可能性などに注意が必要です。

### ② キャッシュレス化と新紙幣の発行 — ～機器改修等に約7700億円

現在、政府はキャッシュレス化を積極的に推進しており、今回の新紙幣の発行は、その取り組みと矛盾するように思うかもしれませんが。しかし現実には、紙幣の発行と流通が完全にならないう限り、偽札などの不正防止対策を継続して行う必要があります。最先端の偽造防止技術を取り入れた新紙幣の発行は不正防止対策の



〔図表〕紙幣の流通枚数



(注) 流通枚数は、「流通残高(金額)÷紙幣の単位」による。  
出所：日本銀行より大和総研作成

一環と位置付けることができます。

また、日本は、キャッシュレス化が進んでいる諸外国に比べると、現金が多く流通している国の1つです。国内の紙幣の流通枚数を確認すると、一万円札の流通枚数は前回2004年11月の紙幣改刷から大幅に増加してきたことが分かります〔図表〕。こうした状況を踏まえると、日本では、依然として紙幣の不正防止対策の重要性は高いといえるでしょう。なお、今回改刷されない二千円札は、既に新規発行は行われておらず、流通枚数は非常に少ない状況が続いています。

新紙幣の発行により、民間では、金融機関のATMや自動販売機、鉄道の券売機等の改修が必要です。政府は、2019年4月の国会の答弁において、新紙幣の改刷対応に伴う需要見込みが約7700億円になるという、一般社団法人日本自動販売システム機械工業会の試算値を示しました。民間事業者の間では、費用負担が重いという理由から、新紙幣への対応を行わず、キャッ

シュレス決済のみに切り替える動きも出ているようです。

また、機器やシステム改修等が間に合わず、7月3日時点で新紙幣が使えないケースが出てくる可能性もあります。紙幣を普段利用する人は、しばらくの間、現在の紙幣も一定程度、手元に置いておくのがよいでしょう。

③ 人気の高い「記番号」にプレミア～前はすり替え事件も発生

今後、新紙幣を受け取った際にぜひ注目したいのが、紙幣に印刷されているアルファベットと数字から成る「記番号」です。現在発行されている紙幣の記番号は、最初と最後がアルファベットで、その間に6桁の数字が入っています。並びが珍しく特徴のある記番号の紙幣は、一部の収集家を中心に額面よりも高いプレミア価格で取引されることもあります。例えば、全て同一数字であるものや1～6の数字が順に並んでいるものは人気が高いとされ、紙幣の状態が良いものほど高額で取引されます。

なお、前回2004年11月に紙幣が改刷された際には、日本銀行の複数の支店職員が、珍しい記番号の紙幣を自分が持っていた紙幣と不正にすり替えていたことが明らかとなり、世間を騒がす大問題となりました。前回の教訓もあり、今回は同様の事態は起こらないでしょう。他方、新紙幣の珍しい記番号を運よく入手した人がSNS(交流サイト)や各種報道等で話題となるケースがあるかもしれません。

**おさない さとし** 2006年早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学、大和総研入社(金融資本市場担当)。2008～10年大和証券に外向(海外市場担当)、2010年大和総研に帰任(新興国、日本経済担当)。2012～14年内閣府参事官補佐として経済財政白書、月例経済報告などを担当。2014年大和総研に帰任(日本経済担当)、2018年より現職(金融資本市場担当)。CFP®認定者。執筆書籍：『デジタル化する世界と金融—北欧のIT政策とポストコロナの日本への教訓』金融財政事情研究会、2020年、共著。『トランプ政権で日本経済はこうなる』日本経済新聞出版社、2016年、共著。『リーダーになったら知っておきたい 経済の読み方』KADOKAWA、2015年、共著。